２－１０　　「炉端の会」の活動の喜び

６期　金曜　近藤　達也
（会長：平成 24 年４月～26 年３月）

私は今年（平成 26 年）72 歳になりました。「炉端の会」には 64 歳の時に入会して 8 年目になります。作家五木寛之氏の著書「林住期」によれば、古代インドの人々は人生を 100 年として 25 年ずつ 4 期に区切って考えたといいます。25 歳までを「学生期」（がくしょうき）、50 歳までを「家住期」（かじゅうき）、75 歳までを「林住期」（りんじゅうき）、100 歳までを「遊行期」（ゆぎょうき）というのだそうです。そして五木氏は 51～75 歳の「林住期」こそ「生きるために働くこと」から解放されて「自分のために生きて楽しむこと」ができる人生のクライマックスの時間だから心して生きよ、というのです。今まさに「林住期」にある私にとってやり甲斐のある「炉端の会」の活動はまことに当を得たもののように思います。

さて私ははからずも平成 24・25 年度の 2 年間「炉端の会」の会長を務めさせていただきました。会長として会の良き伝統を守りながら時代に合った新しい組織と活動をどう展開するかについてはいろいろ考えるところがありました。特に思いが強かったのは「炉端の会」の発信力を高めることでした。これほど貴重な文化財を集めた「日本民家園」の存在が関東圏でも意外に知られていない、と同時に私たち「炉端の会」の存在も活動も川崎市民にさえ殆ど知られていない、ということは何とも情けないことでありました。この点については副会長の吉田さんと川崎市やいろいろなボランティア団体の会合にも積極的に参加してアピールすることに努めました。また皆さんと相談した結果メンバー全員に名刺を持っていただき、会員としての自覚を持つと同時にいわば広告塔としての役割を担っていただくことにしました。さらに「広報チーム」を

川崎市文化財フォーラムで報告する近藤会長

結成していただき、その結果対外的な発信力を格段に強化することに繋がりました。特にシステムに強い熱心なメンバーのお蔭で素晴らしいホームページを立ち上げていただき、今後の展望が広がりました。

その他「草バッタチーム」も皆さんの提案が実を結びました。また 2 泊 3 日の五箇山と遠野の園外研修も皆さんと企画実行できました。

会長任期の 2 年間、少しではありますが会を前進させることができたような気がします。それもこれも日本民家園と会員の皆さんのご協力があってこそと、心から感謝しています。

ところで私の「林住期」も残すところ 3 年となりました。とするとその後の「遊行期」は静かに人生の終末に向けての準備を・・・、ということになるのですがこれは古代インドでの話。五木氏は本のなかで「気力と体力があれば、さらに林住期を 10 年延長してもよい」と言ってくれています。囲炉裏の火焚き、古民家の解説、薪割りなど「炉端の会」の活動の喜びは条件付きながらあと 13 年くらいは許されるらしい、ありがたい話であります。同年代の多くの「林住期」の皆さん、どうか安心してまだまだ活動を楽しもうではありませんか。